

農作物生産情報 (平成30年9月)

気象

(平成30年8月24日 仙台管区气象台発表 東北地方3か月予報より)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

水稲

ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、適期刈取に努めよう！

1 出穂の状況

今年の管内全体の出穂最盛期は8月5日で、平年並みであった。

8月は低温傾向にあることから、登熟は平年よりやや遅れていると想定される。

■ 市町別の出穂状況

市町名	出穂始		出穂最盛期			出穂終	
	本年	平年	本年	平年	平年差	本年	平年
五所川原市	8/1	8/3	8/5	8/6	早1日	8/10	8/10
中泊町	8/1	8/2	8/5	8/5	差なし	8/10	8/10
板柳町	8/2	8/3	8/6	8/6	差なし	8/10	8/10
鶴田町	8/1	8/2	8/5	8/6	早1日	8/9	8/9
つがる市	8/2	8/3	8/4	8/5	早1日	8/9	8/9
鱒ヶ沢町	7/30	8/1	8/2	8/4	早2日	8/8	8/9
深浦町	8/1	8/1	8/5	8/5	差なし	8/10	8/10
西北全体	8/1	8/2	8/5	8/5	差なし	8/10	8/10

注) 出穂始は5%、出穂最盛期は50%、出穂終は95%の面積が出穂期に達した月日である。

2 刈取時期の判断方法

刈取りが早すぎると未熟粒の混入が多くなり、遅れると茶米や奇形粒、胴割粒などの被害粒が増加する。

登熟の進みには、ほ場差、地域間差があるので、次の表を目安に、ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、総合的に刈取時期を判断する。

■ 出穂後積算気温からみた刈取適期の期間

まっしぐら	出穂後積算気温で960~1,200℃
つがるロマン	出穂後積算気温で960~1,150℃
青天の霹靂	出穂後積算気温で900~1,100℃

(1) 出穂後積算気温からみた刈取時期の予想 (8月20日現在)

主な品種ごとの出穂後積算気温でみた刈取適期の予想は、以下の表のとおりである。

なお、この時期はあくまで目安であり、刈取りは水田の状況を見ながら総合的に判断する。

■ 出穂後積算気温でみた「まっしぐら」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,200℃到達予想日
8月 1日	9月15日	9月29日
8月 5日	9月20日	10月 4日
8月 10日	9月26日	10月12日

■ 出穂後積算気温でみた「つがるロマン」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,150℃到達予想日
8月 1日	9月15日	9月26日
8月 5日	9月20日	10月 1日
8月 10日	9月26日	10月 8日

■ 出穂後積算気温でみた「青天の霹靂」刈取適期の予想

出穂期	900℃到達予想日	1,100℃到達予想日
8月 1日	9月12日	9月23日
8月 5日	9月17日	9月28日
8月 10日	9月23日	10月 5日

注) 五所川原アメダス値を使用し、8月20日までは本年値、それ以降は平年値を用いて算出。

(2) ほ場ごとの刈取開始期の目安

籾の黄化程度	① 「まっしぐら」・「つがるロマン」 ほ場全体の籾が、90%程度黄化した時期 ② 「青天の霹靂」 ほ場全体の籾が、85%程度黄化した時期
枝梗の黄化程度	枝梗の2/3程度が黄化した時期
青未熟粒の混入割合	青未熟粒の混入率(1.9mm選別、重量比)が、10%程度まで減少した時期
籾水分	25~26%程度まで減少した時期

< 語句説明 >

出穂期：ほ場全体の40~45%が出穂した日

出穂後積算気温：出穂期の翌日からの毎日の平均気温を合計した値

『平成30年産あおもりの旨い米グランプリ』のお知らせ

- 1 出品対象者
県内在住の水稻生産者
- 2 出品対象
県内で生産された平成30年産の「青天の霹靂」、「つがるロマン」、「まっしぐら」
- 3 受付方法
 - (1) 申込受付
平成30年9月28日（金）～10月31日（水）の間に申込書を西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室またはつがる分室へ申込み
 - (2) 玄米提出
玄米2kgを平成30年10月15日（月）～10月31日（水）の間に西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室にまたはつがる分室へ提出
- 4 その他
 - (1) 出品料は無料
 - (2) 出品は1生産者1点
 - (3) 出品した玄米の返却はなし
 - (4) 玄米水分16%以上の場合は審査対象外とする

問い合わせは西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室またはつがる分室へ!!

畑 作

◆ 大 豆 ◆

病虫害防除をしっかり行い、収量、品質を確保しよう！

1 病虫害防除

9月上旬までに、紫斑病、マメシクイガの防除を行う。

2 その他の管理

- (1) ほ場の滞水で収穫作業に支障が生じないように、溝切りなどの排水対策を行う。
- (2) 汚粒の原因となる、わい化病株や雑草の抜き取りを収穫前までに行う。

◆ 小 麦 ◆

ほ場整備、排水対策をしっかり行い、生育を確保しよう！

1 ほ場の準備

転作田では、雪解けが早く排水が良いほ場を選び、明きょや弾丸暗きょ等を施工し、融雪水の排水対策を行う。

は種精度、出芽率、除草剤の効果向上のため、砕土と整地はていねいに行う

2 施 肥

基肥は成分で、10 a 当たり窒素 7～8 kg、リン酸12～15kg、カリ 9～10kgを基準に、地力、連作年数、前作を考慮して増減する。

また、土壌pH6.0以下では生育が悪くなるので土壌診断に基づいて石灰資材を施用し、土壌酸度を矯正する。

3 種子消毒

紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、ベフラン液剤 25 (塗抹処理) 及びキンセツ水和剤 80 など (乾粉衣または湿粉衣) で種子消毒を行う。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。

4 は種期

は種適期は9月15～25日であり、は種量はドリル播きで10 a 当たり 8～10kgとする。なお、は種時期が9月末以降にずれ込む場合は、は種量を 2 kg/10a程度増やす。

5 雑草防除

耕起前に、ほ場に雑草が繁茂している場合はラウンドアップマックスロードを茎葉散布する。

は種直後及び発芽前は、ロロックス水和剤やトレファノサイド乳剤、ガレースG など (いずれも全面土壌散布) を使用する。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。

りんご

十分味をのせた良食味のりんごを適期に収穫しよう！

ふじの肥大（県生育観測ほ：板柳町五幾形）は、8月21日現在、横径7.5cmで、平年（7.1cm）を上回っている。

つがるの熟度（りんご研究所調べ）は、平年よりやや進んでいる。

1 つがるの収穫

- (1) 熟度は平年よりやや進んでいることから、収穫始めは9月7日頃からと見込まれる。
- (2) 収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。
- (3) 熟期が揃わないので、着色、地色、硬さなどを見て2～3回に分けて収穫する。
- (4) 収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりが早くなるので、速やかに冷蔵施設に搬入する。
- (5) ストッポール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。

2 中・晩生種の管理

- (1) 「樹上選果」の徹底
着果量の多い園地では、収穫時まで随時、黒星病などの病害虫被害果、鳥害果、日焼け果などの障害果を摘み取る。
- (2) 着色手入れ
早くからの強い葉摘みは、鮮やかな色が着かないばかりか食味の低下につながるため、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始める。

■ 平年の実施時期

品 種	除 袋 時 期	着 色 手 入 れ
早 生 ふ じ	—	9月10日～10月 1日
紅 玉	—	9月15日～ 30日
ジ ョ ナ コ ー ル ト [®] （有袋）	9月15日～25日	9月25日～10月 5日
ジ ョ ナ コ ー ル ト [®] （無袋）	—	9月20日～10月10日
陸 奥	9月25日～10月 5日	10月 5日～ 10日
ふ じ（有袋）	9月20日～10月 5日	10月 5日～ 25日
ふ じ（無袋）	—	9月25日～10月25日

ア 除袋時の注意

外袋をはぐときは、果実に密着している葉を摘み取る。内袋は果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時（晴れた日が3～5日続いた後）にはぐ。

日焼けを防ぐため、二度はぎ用二重袋の内袋をはぐ場合、または一度はぎ用二重袋をはぐ場合は、曇天日又は晴天日の10時～14時（果面の表面温度が高くなる日中）とする。

イ 摘葉剤「ジョンカラープロ」を利用する場合

「ふじ」のみを対象とし、収穫40～50日前（9月中旬頃）に500倍液を10a当たり400～700ℓ散布する。展着剤ブラボー1,000倍を加えると効果が高まり、安定する。

散布後30日間は収穫できないので注意する。

散布後、低温や降雨が続くと効果が不十分だったり、極端な高温では過剰落葉となるので、できるだけ温暖（平均気温：17～19℃）で好天が予想される時に散布する。

3 病虫害防除「農薬はりんご園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。」

(1) すず斑病・すず点病

例年発生の多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に、9月15日頃にオーソサイド水和剤80～800倍、ストライド顆粒水和剤1,500倍、トップジンM水和剤1,500倍のいずれかを果実に十分にかかるように特別散布する。また、早生種に飛散しないよう注意する。

(2) 黒星病

黒星病の発生している園地では、病原菌の密度を下げるため、着色手入れのために葉摘みした葉はかき集め、土中に埋めるなど適切に処分する。

また、発生の多い園地では、秋季感染を防ぐため9月15日頃に行うすず斑病・すず点病の特別散布の際は、基準薬剤の中から、オーソサイド水和剤80～800倍又はストライド顆粒水和剤1,500倍を選択する。

(3) モモシンクイガ

被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上の水漬けなど適切な処置をする。また、もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

4 風水害対策

(1) 事前対策

台風等の気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。特に、幹などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害等を受けている枝や樹、幼木に対しては念入りに行う。

(2) 事後対策

ア 倒木した場合は、早めに起こして支柱で支える。

イ 枝が裂けた場合、回復可能なものは、その先の枝量を減らして、ロープで固く縛るか、かすがいなどで固定する。

ウ 浸水した園地では、速やかに排水する。

エ 冠水した場合、有袋果は直ちに除袋する。また、果実や葉に付着した泥は清水で洗い落とす。

秋の農作業安全運動展開中 8月15日～10月31日

○慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。

○作業の合間に十分な休憩を取りましょう。

○自分の能力を過信せず、無理のない作業を行いましょう。

○家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。

○家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

ぶどう

適正な管理で、消費者に美味しいぶどうを届けよう！

1 収穫時期の判定

(1) スチューベン

ア 着色日は8月24日（鶴田町境）で平年より5日早かった。

イ 収穫は、果皮の着色だけで判断せず、糖度（18度以上）を測定するなど確認し、十分味がのったものを収穫する。

(2) その他の品種

キャンベル・アーリーは糖度が上がらなくても良く着色し、また、黄色品種のナイヤガラ、ポートランド及びシャインマスカットは果皮色の変化が少なく外観上から収穫時期を判定するのは難しいため、収穫に当たっては、必ず糖度を測定する。

■ 平年の収穫時期と収穫時の目安

品 種	収穫時期	果皮色	糖度(%)
ポートランド	9月上旬	黄緑	14
キャンベル・アーリー	9月中旬	紫黒	14
サニールージュ	9月中旬	紫赤～赤褐	17
ナイヤガラ	9月下旬	黄緑	15
スチューベン	10月上旬	紫黒	18
シャインマスカット	10月上旬	黄緑	18

2 収穫時の留意事項

- (1) 収穫は朝夕の果実温度が低い時間に行う。
- (2) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下するほか、輸送中の腐敗が多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。
- (3) 収穫した果実は病虫害の被害果や未熟果、小粒果等を除き、房の大きさや着色程度、品質等により選別する。

3 スチューベンの病害対策

(1) 灰色かび病

長期貯蔵向けのスチューベンを対象に、フルーツセイバー 1,500倍を8月下旬～9月上旬に10a当たり250g散布する。使用時期は、収穫7日前までで、果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。

(2) べと病

発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取り、また、被害落葉も集めて処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

トマト

気温の低下に伴う裂果の発生を防ぐため、適正なかん水と追肥、保温に努めよう！

1 裂果対策

- (1) 裂果発生の軽減のため、かん水は摘心後約30日まで行う。かん水量は 1.5ℓ/株とし、かん水間隔は1～2日おきとする。
- (2) 追肥が多いと裂果が多くなるため、追肥は最終花房のトマトトーン処理終了後までとする。ただし、肥料不足の場合は、9月中旬以降1～2回追肥を行う。
- (3) 気温の低下とともに裂果が多くなるので、夜温が15℃を下回る場合は保温に努める。

2 エスレル処理

10月中旬以降は気温が急激に低下し着色が進まないため、9月下旬から白熟期になった果房ごとにエスレル10を散布して着色を促進する。

散布時期	倍数	散布液量	散布回数
9月25日～10月5日	300倍	5ml / 1果房	1果房につき1回

注) 散布時や散布後2～3日間は、ハウス内の気温を30℃以上にしない。

3 病虫害防除

灰色かび病、疫病、葉かび病、すすかび病、うどんこ病、タバコガ類、オンシツコナジラミの防除を行う。

生産段階における葉物野菜の衛生管理の徹底について

厚生労働省から、本年5月に埼玉県等で発生した腸管出血性大腸菌O-157の食中毒・感染症の発生にサンチュの喫食が関連している疑いがあることが発表されました。

葉物野菜等を栽培している場合は、農林水産省による「栽培から出荷までのやさいの衛生管理指針」(http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/pdf/sisin.pdf)を参考に、衛生管理の徹底をお願いします。

花き

温度管理を徹底し、高品質な花きの生産に努めよう！

◆キク◆

1 今後の作業

- (1) 苗床は、日当たりと排水の良いハウスに作る。親株を伏せ込む2週間前に1 a 当たり完熟堆肥を250～300kg、窒素、りん酸、カリを成分で0.5～1.0kg施用する。
- (2) 親株は、病虫害被害のない健全なものを選び、10月下旬までに伏せ込む。
- (3) 秋ギク「神馬」の11月出荷栽培では、消灯後45～55日で開花するので、出荷時期に合わせて消灯日を決める。また、品質向上のために再電照を行う。

2 病虫害防除

白さび病、アブラムシ類、ヤガ類等の発生に注意し、適期に防除する。

◆トルコギキョウ◆

1 今後の作業

- (1) 抑制作型では、ハウス内温度が日中25℃を超えないように換気に努める。夜温が15℃を下回るようになったら、夜間はハウスを閉める。発蕾期以降は、固く仕上げるため、かん水を控えめにする。
- (2) 越冬作型では、9月上旬までには種を行い、発芽までは20～25℃、発芽後は15℃前後を目標に管理する。定植は10月下旬頃までに行う。

2 病虫害防除

灰色かび病、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

5～8月は「農薬危害防止運動」実施期間です

農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう

- 使い残した農薬などは、河川等へ絶対捨てない。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。